

ベトナム

新型コロナで景気は観光業を中心に大幅減速

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 塚田 雄太

E-mail: tsukada.yuta@jri.co.jp

■観光業が大打撃

世界的な新型コロナの感染拡大が、ベトナム経済に大きな影を落としている。

とりわけ、打撃が大きいのが観光業である。2018年のベトナムの観光業の規模は、対名目GDP比で9.2%であり、ベトナム経済全体への影響を無視できない(右上図)。

ベトナムでは、1月の中国における新型コロナ蔓延以降、感染拡大防止を目的に感染国からの旅行者の入国拒否や到着ビザの発給停止といった措置が実施されているほか、国内でも自粛ムードが高まっている。実際、現地報道によれば、国内の主要移動手段であるバスの利用客は、新型コロナ蔓延前に比べ、3~7割落ち込んでいるとされ、観光業は急激に業況が悪化している。

世界各国で新型コロナの感染拡大が続くなか、当面、観光業の不振も続くと思われる。ちなみに、2020年通年で訪越観光客が▲25%減少、国内旅行者が▲10%減少すると仮定すると、GDPは▲1.2%ポイント下押しされると試算される。

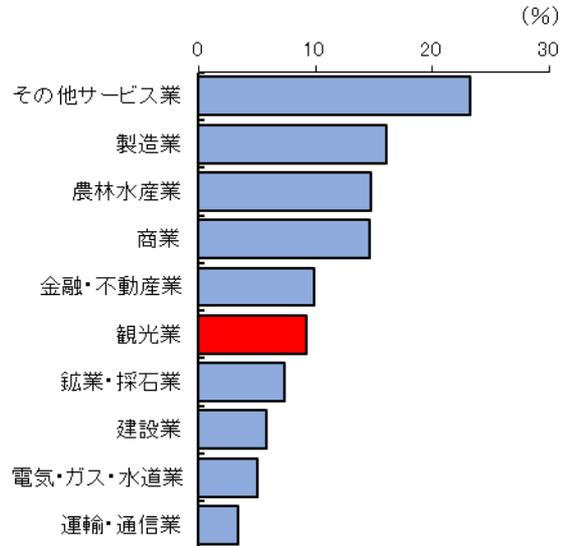
■製造業も先行き大きく悪化へ

一方、新型コロナの影響は足元で製造業にもおよびつつある。2020年1~2月の製造業生産指数は前年比+7.0%と2019年12月と同水準の伸びを維持した。しかし、先行指標である製造業の購買担当者指数(PMI)は、中国からの原材料・部品供給が滞るなか、47.1ポイントと6年7ヵ月ぶりの水準に低下しており、3月の生産活動は大きく減速した可能性が高い(右下図)。

4月以降も、当面、ベトナムの生産は低迷が続くと見込まれる。感染のピークを越えた中国では足元で企業活動が再開に向かいつつあり、中国からの原材料・部品供給は徐々に回復してくるとみられるものの、感染の中心地がアジアから欧米へと拡大するなか、今後は、ベトナムの主要輸出先である米国、欧州の需要下振れが生産の下押し要因となる公算が大きい。

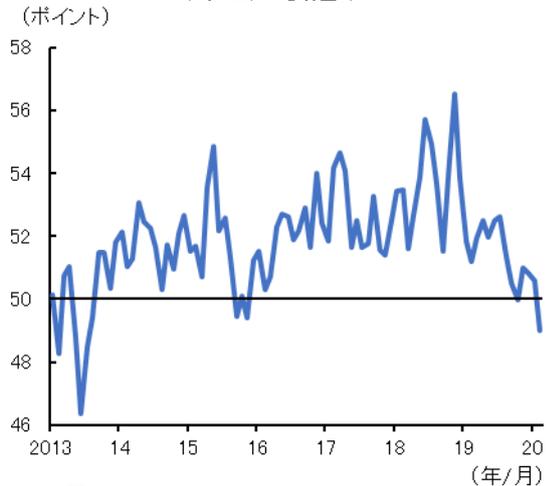
これらを踏まえ、ベトナムの2020年通年の実質GDP成長率は+4.9%と、前年(+7.0%)から大幅に減速するものと現時点では予想している。

＜ベトナムの産業別GDPシェア(2018年)＞



(出所)ベトナム統計総局、WTTTC「Viet Nam 2019 Annual Research: Key Highlights」を基に日本総研作成

＜ベトナムの製造業PMI＞



(出所) IHS Markit

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。